

在特会の論理（4）

—— 教育勅語を暗記している D 氏の場合 ——

樋口 直人

1. 問題の所在——「ネット右翼」をどう捉えるか

たとえば Yahoo! のニュース欄に対するコメントをみると、いかなるトピックであれ中国・韓国に結び付けて「嫌韓・嫌中」を披露するネット右翼が幅をきかせている。それは論の正統性というよりは、ネット右翼が記事にいち早く反応し、人目につく可能性を高めることで存在感を高めると考えるのが妥当だろう。だとしても、次々に報じられる新しいトピックにリアルタイムで反応する一群の人々が存在するわけで、そうしたネット右翼を無視することもできなくなっている。その結果ネット右翼は、現代社会論的な関心を持つ研究者やメディア関係者が一定程度言及するトピックとなっている（北田 2005; 近藤・谷崎 2007; 高原 2006; 辻 2010, 2011; 安田 2010, 2011）。

しかし、こうした新たな右翼的なものに対する研究者のアプローチは、職業的研究者とは思えないようなお粗末な評論レベルに止まってきた。北田は、ネットにはびこる言説の構造を自らの図式に即して表面的になぞって何かを解明したようなそぶりをする。高原も、実証的な根拠のない「不安型ナショナリズム」なる無責任な図式を打ち出した。逆に実証的に迫ろうとした辻は、インターネットでのアンケートに頼ってサンプルの少ないほとんど意味のない分析を行っている。こうした無意味な議論と比較すると、上野陽子の稚拙な卒論（小熊・上野 2003）や安田浩一の突撃取材的なルポルタージュの方が、社会科学的にはよほど豊かな考察材料を提供している。

ネット右翼が可視化したものとして在特会は存在し、アプローチ自体も難しくはないにもかかわらず、なぜ研究者はそれを遠巻きに見て評論するにとどまるのか。筆者の素朴な疑問はこれに尽きる。その点で、北田、高原、小熊（小熊・上野 2003）のお手軽な評論をもって「先行研究」などとするのは、同じ職業的研究者として内心忸怩たるものがあつた。さらに、これらの評論を含む先行文献には 2 つの問題点がある。第 1 に、これらは諸外国の極右・排外主義に関する研究をまったくといってよいほど参照していない。高原は韓国や中国でも反日ナショナリズムがあるという

視点を持っているが、それも先行研究の蓄積のうえに述べたものではない。時間的・空間的な相対化の視点を持たないがゆえに、これらの先行文献は現前の事象に振り回され誤った解釈をもたらしていると筆者は考えている。

先行文献のもう 1 つの問題点は、もっとも質の高い安田のルポも含めて「剥奪」を参加動機として安易に想定している点にある。社会の流動化・グローバル化というマクロな変動が、ミクロな不安の集積を呼び、それが新たな右翼的なものへと結びついている——このような見方は、確かに初期の西欧の極右研究でもみられた。しかし、その後の研究の展開をみれば剥奪（その帰結としての「不安」）で現象を説明できるほど、現実には単純ではない。日本の経験をとってみても、創価学会は高度経済成長期に都市に移動し社会解体を経験した人たちの不安を吸収して成長したとされる。ならば、なぜこの時期に右翼的なものが台頭しなかったのか。外国人の流入が喧伝され不景気に陥った 1990 年代後半ではなく、なぜ 2000 年代後半に排外主義運動が起きたのか。詳しくは別稿で述べるとして、一見もっともにみえる「剥奪」による単純な説明は、過去 40 年の社会運動研究で完全に論破されている。その意味で、先行研究は極右だけでなく社会運動研究についても無知であり、それが在特会に対する正確な分析を妨げる要因ともなってきた。以下で提示するのは、そうした関心を持って D 氏（30 代男性）に対して 2011 年 5 月 22 日に聞き取りを実施した記録である。

2. 生い立ちと政治への関心

（育った環境は）学術的というと、尊皇主義、多分そっちに私は近いんじゃないかと思うんです。今改めて思えば。要するに陛下がこう言うんだったら、それに従うのが当たり前だ、という感じなんです。それが今のところたまたま保守の人と似ているというか。行動の経緯が同じだから、そうなのかなあという感じですね。

とにかく小学校の時から、教育勅語とか暗記させられたんで。中 1 のときは、大東亜戦争終結の御詔勅も

暗記させられたんで、今でも普通に言えますね。だから、その時は意味が不明だったんですけども、何回も言って読んでいるとわかるんですよ、意味が。だからみんなね、戦争で亡くなった人やその遺族のことを思ったら、私の「五内為ニ裂ク」先帝陛下がおっしゃっている。要するに、内臓が張り裂けそうに辛いついていうようなことを言っていると、しゃべっているうちに段々泣きそうになってくるんですね。段々分かってくるんです。ややこしいことはわからなくても、そういうのがずっとあったんで。

うちは親父の教育があったから、学校の教育なんかクソだったね。ただ学校の先生は学校行ったら親だと思えていわれたんで、よくいたずらしては学校の先生に怒られたりしては、内緒にしてはいましたけどね。今みたいに、何でもかんでも言うという子ども達とは考え方がだいぶ違うので。半殺しにされるもの。だから、だいぶ違いますね。そういうのを考えると。だから学校教育でどうのとかいっても、学校の先生はすべてをうちの親父よりも年下だったし。親父は戦前生まれなんで、だから若いんですよ、先生も。だから先生のいうことの方が嘘臭く聞こえたし、あんまり何も思わなかったですね。

ただその、政治的にどうかっていわれたら、あんまりないですね。実は。基本的に歴史。だから歴史についてどうかっていう話ばかりなんで、政治的にどうだっていう話は・・どうかなあ、平成14年くらいですかねえ。人権擁護法案が最初に飛び出た時くらいかな。あのときくらいですよ、初めてその政治っていうものがやばいっていう風に思ったのは。それまでは基本的に歴史の本ばかり読んでいて。歴史が大好きだったんで。ただ、当時読んでた本っていうのが、ほとんどが左の方が書いた自虐史的な本ばかりで。クソ面白くねえなって言って、ずっと本当、そんな感じで読んでた。歴史小説みたいなものは本当に楽しく読んでたんですね。だから何が間違っただけで政治的なことになっちゃったっていうのが、本当後悔ですね。本当に。

(周囲の人たち) 政治というものの話は確かにしなかったけど、それは会話にならないからというのが大きい。私は衝撃を受けるんですよ。あの、そんなこともわからない、というかそういう風に物を考えるんだって。

(選挙には) 全部行っています。国民の義務——それやらないと自然にダメでしょう、という感じですね。別にそんなかっこいいあれでもないけども、信号赤だったら止まるのと同じな感じですよ。感覚としては。それはもう何があっても絶対に。当時はただ、何となく自民党がいいんでしょ、という感じで基本的に自民党

です。ずっと自民党。今一番まともなのが、自民党の人多いんで、結果的に自民党に投票することが多いですよ。まあ、そういうことですね。

3. 外国人との接触

在特会に入って、何の気なしに「シュプレヒコール！」とか「朝鮮人は云々かんぬん」っていうじゃないですか。別にそう思ってなくてもまあプロパガンダだなと思ってはいますが、そんな言うなんて考えられなかったですものね。まず、さっきから言ってますけど、怖かったんですよ。朝鮮人とかって。うちの親父の友達もいっぱいいたんですけど、やっぱりみんなそっち系なんですよ。怖いんですよ。スジ系の人ばかりで、何かあったらすぐやっちゃうような感じだったんで。そういう人たちはそういう人だ、という感覚がずっとあったから、何かいったりしたら報復受けるんじゃないかっていうのがずっとあって。今でこそ総連とかに名前と住所書いて抗議文とか出すけども、当時はおっかなかったですもの。名前これ出したらやられるんじゃないかとか、本当に思ったんで。だけどそれも人数いけばクッションじゃないけど、どうにかなるのかなって思ったんですよ。そういう意味で、外国人参政権のときの行動を起こすときも、割とできたっていうのもある。

私は別に小さい時からの親父の付き合いで「ああ、怖いな」と思った程度で、自分とは何も関わりがあるとは思ってなかったんで、別に何も。だから、恐らく多分在特会のなかで、(在日コリアンに) もっとも関心がないのは私だと思ってます、興味もあれもないのは。ないんですよ、実際。だから平気で韓国人とも友達になるし。ただ、喧嘩になることは多いんで。というか、仕事と一緒にしたくないですよ。嘘つくの。すぐ嘘つくから。約束すぐ破るし。

だからそういうのはいやだけど、ただ仕事だからいやなんであって、あとはいい。(在日コリアンは) 酒強いし面白いし騒ぐし。ただ仕事と一緒にやりたくない。現場で働く人だから、ちょっとおかしいんだ。やっぱり。あると思いますよ。そういうのは。だから、朝鮮学校出て、そのままりあえずどこか修行入ったとか、(そういう人は) 平気でウソつくんですよ。だからそういう意味では嫌いだけど、それは別に日本人でもあそこの会社のやつはすぐ嘘つくからいやだ、とか同じなんで。割合がちょっと多いというだけで。

4. 人権擁護法というきっかけ

《初めて街頭へ》

あの時はぎりぎり廃案になってくれたんで良かった

た。あの時にあれでしょ、初めて（活動した）。一応なんとなくですけど。特にそういう仲間もいなかったし、言ったってよく理解されないし。だから、飲食店で「おかしいよね」とかいうそんな会話だけで終わってたのが、人権擁護法案出たときは「これは絶対しゃれにならない」といって、自分でビラ作って駅前で。1人でやってたんです。

それだって、それやるのに手続きが必要だとかも知らないし、ただやってた。とにかくみんなに知らせるしかないと思ったんで。それはもう衝動に駆られたっていうか。これじゃあともかく「赤狩りじゃなくて、まともな人間を狩る法律なんじゃないの？」ってそっちのほうが強かったですね。法案内容見ても、これ恣意的に使われたらアウトだよな、というのが本当に大きかったですね。

（情報は）普通にインターネットで調べました。（ネットを使い始めたのは）早いですよ。94年から。パソコン通信をやったから。ウィンドウズ3.1、3.0、DOSの時からやってました。だからネットに関しては結構古いです。最初は面白かったから。ただ、その時にそういう人たちと政治的な話したかっていったら、何もしない。パソコンの話。あとどの部品がいいとか、そんなのばかりで。あと好きな本の話とか。全然政治とは関係ない状態でした。

チャンネル桜さんの前身で、そういうネットの媒体を通して保守的なものをずっとやっているサイトがあったんですよ。それがすごく影響大きかったですね。最初はインターネットで知ったんです。で、「は？」と思って、こんなことがありえるのか。それまであんまり興味なかった政治家個人個人の考え方にも興味持ち出して、当時は誰だったかな、城内実さんだったかな、あの辺が騒いでたんですよ。平沼（赳夫）先生とかもまあ騒いでいて、これはどうしようもないのかなという思いがすごかったですね。

だから、結果として何もなかったんで良かったのかなとは思うんだけど、あの時は正直こいつ馬鹿じゃねえかよ、と思われていたと思うんですよ。配っている時。興味のかけらもない人たちがばかりだったんで。今は政権がアホ過ぎて、多少なりとも「この人たちは政治のことやってんだろうな」と認識されるんでしょうけど、当時だって一水会の人たちが街宣するのを見たことあったんですけど、正直「あれが右翼なんだ」という意識しかなくて。要するに右翼思想というものが一応わかっただけで、私は違うんだな、そんな感じしか印象がなかったの。まあまさか似たようなことをやることになるとは、思っても見なかったですね。本当に思ってたなかった。まさか（その人たちと）

けんかになるとは思ってもみなかった。

（チャンネル桜の前身をみたのは）元々のきっかけは忘れてしまったのですが、何かで引っかけたんですよ。何気なく見ていたある日。何だっけな。それでチャンネル桜って知って。桜井さんとか出てきて。桜井さんを見たのがチャンネル桜だったんで、そんな感じでしたね。なんで、でも本当の最初は忘れたな。何だっけな。人権擁護法案を知ったサイトを見るようになったきっかけというのは、本当忘れてしまったな。多分何かしらつまらない理由だったと思うんですよ。興味あんまりなかったんで。それが何かのきっかけで見ちゃったのが、失敗の元。本当、間違った。

拉致は思想とは違っていた。人権擁護法案というのは、完璧に政治的な話だと思ってたんですよ。拉致というのは、全日本人が起こると思ってたし、当たり前だと思ってたんで。だからあの時のわかったうちの、安倍さんとかがさっきまで知らないと言っていたくせに、急に（変わって）この野郎とかいろいろ思ったんですけど。あのとき、でも拉致で何か行動を起こそうかなという気にはならなかったですよ。どうしてかという、あまりにも国がやらなきゃいけないことすぎて、何もできないじゃないですか、一個人が。で、そういうのを考えると、というか日本政府が取り返すと思ってたんで、絶対に。だから最初にわかったときの衝撃というのは、テレビとかでも連日のように拉致がどうの拉致がどうのとやってたし、だからこちらもそれについて何かやらないという感じではなかったですね。

むしろ人権擁護法案のほうが、圧倒的にこれはやばい。テレビに対してあの時まだマスコミにも規制入ってたんで、ちょこちょこは言ってたけど、その後一切言わなくなったし、怖かったですよ。これは妄想じゃなくて、本当にやばいなと思いましたから。拉致が本当にわかったときも確かに衝撃でしたけど、それは政治的にというよりは日本人として頭にくるといえる。考えられないなと思いましたけどね。北朝鮮に行くわけにもいかないし、本当にだからどうしようもない。向こうの国家が認めて実際に拉致しているのは判明しているのだから、あとは国がどうにかするしかないんであって。国民がどうするという話じゃないと思うけど。

昔、多かったみたいだけど。刑務所に突っ込まれて、どうしようもなくなるのと同じくらいのことだと私は思うんですよ。自分の意思とは無関係な、何も悪くないのに、それに対して頭に来ないと思う人がいるのかな、これは許せないものね。だから拉致しているっていう、よく朝鮮人が拉致したんだからって皆怒り

を朝鮮人に持つのかもしれないけども、「なぜそれを救い出せないの？」って日本人に対する怒りの方が。

人権侵害救済法案について、本当に腹立つなあ。何で、何で、何で必要のないものを作ろうとするのか私には理解できないんですけど。間違いなく法務省の天下りになるんだろうと私は思っているんですけど、だからあんなに熱心にやっているのかなあ。私はだから、間違っってといたらおかしな言い方になりますけど、こういうことをやる羽目になっちゃったのが、これ（人権擁護法案）なんで。本当に頭にきているんですよ、実は。

《ネット左翼？》

よくネット右翼って話が出ますけども、「むしろネット左翼の方が多んじゃないの？」って思いませんか。インターネット見てたら。私あの人たち（左翼）すごいなと思いますよ。情報の伝え方。私から見ると左の方が上手だなと思うんですよ、ネットの使い方が。たとえばハテナブログであるとか、すごくまとめたがるじゃないですか、左の人たち体系的に。ああいうのって保守的な人って何もやらないじゃないですか。面倒くさがるのか何なのか。興味が無いのか知らないけど。ウィキとかでも、たいいてい左の人が完璧に作るじゃないですか。データベースを。確実に頭いいですものね。

だから、私とかよく言うのは、ものすごい学歴の高い馬鹿ってよく言っているんですよ。日本人として大事なものをお前ら忘れてるんじゃないの、と思うんですけど、勉強になったら勝ち目ないし。言い合いになっても全然。1回も生まれてきて聞いたことがないような言葉で言われたら、「はあ？」と・・・わからないとも言えないしな。

5. 在特会へ

後でわかったんですけど、（入会前から桜井氏の）ブログは見ていたんですね。ピンク色のバックで、韓国人がこうなったらこうやって言う、みたいな。大したホームページじゃないですけどだーっと書いてあって、それをたどっていったら『不思議の国の韓国』だったんですよ。それは後で知ったんです。それはお気に入りに入れていて「へーそうなんだ」って思っ

（入会は）2007年の終わりぐらいだったような気が。支部で告知を見てから入ったんですよ。（そこで集まった時）会って見たかったんですよ、どういう人だか。だからさっき言ったように、本当怖い人ばかりだろうと思っ

てさ、何だこれって。しかもパチンコ屋で働いてますって人までいるし、「何だこれ？」って。本当にそうだったんですよ。だから、最初やっぱりどきどきはしてました。これでも今行かないと多分いけないって、こう第一歩じゃないですけど、それは思いましたね。一度会ってしまったら、ああ普通の人だ、と何の抵抗もなくなっただけですけど。イデオロギー的なもので集まるということになると、やはり意味は違って。どんな人があるのかっていうのが本当にわからない。

何で入ったんだっけな。元々会ができたのは知ってたんですよ。（チャンネル）桜で流れてたから。だけど、当時ですね、私がよく知っていた会っていうと、やっぱり右翼系の団体ばかりで市民団体、保守系市民団体という感じではなかったですね。いかつい人たちが何かこう命をかけてます、みたいなものばかりだったんで。在特会に一番最初に入るきっかけは、名前が良かった。「在日特権を許さない」・・・めっちゃポイント絞っているじゃないですか。あれが何か・・・もしあれが「日本の国民を守る会」とかだったら、私は多分何の興味も——そんなの守って当たり前だろうって思っ

ただ、「在日特権」何だそれ？というのがあったんですけど、ちょうど私が会に入るきっかけになったのが、三重で詐欺がですねえ、公務員による詐欺が発覚したんです。住民税が半額、50年間に渡って恒久的に半額にしてたっていうあのニュースが出て、「ああやっぱり在日特権はあるんだ」。半額にしてくれないとおかしいって、言いがかりでいっていたら、実はその人が半額にして半額分を自分がネコババしてたっていうニュース見て。それまで在日特権ってあるんだなあ、と、漠然と何となく言われてたけど、「ああ本当にあるんだ、やっぱりこれダメじゃない」というのがすごく、じゃあ入ろうかなと思っ

たんですけど、それまでは別にそういう会があるのは知ってたし、桜井さんもわかってたけど、お話が上手な人だなあというくらいにしか思っ

実は、在日関係の「在日」って朝鮮韓国人に特化しているってことを、わかったのは結構後なんですよ。在日外国人だから、ブラジル人でもそうだし、中国人もそう、そういうのを思っ

たんで。でも、改めてこうしてちゃんと読むと、あれこれ韓国人、朝鮮人のことを知っているんだな、というのは後でわかったことなんで。こういってはなんんですけど、その程度の理由。高尚な考えがあるわけでもなければ、単純によくわかってなかったっていう。ただ単純に特権を許さないというのが、正しいんじゃないのかっていうことなんで

すよ。

《東アジアに対する関心》

ただ、積極的に、何といふかなあんまり韓国の興味が無いんで。実は今でもあんまり興味ないんですよ。特に何で在特会にいるの？っていわれたら困っちゃうんですよ。全然興味ない、実は。韓国がなんだろうと「ふーん」っていう感じで。だからよくある嫌韓中とか、韓国人とか朝鮮人とか嫌いでしょうがないっていう人があるじゃないですか。確かにそういう人もいますよ。何か知らないけどすごい嫌っているというのいが分かる人はいるんですけど。全然嫌いでもなければ好きでもない、興味もないんですよ、私は。だから何かおかしいよね。その辺がなんで在特会にいるのかなーっていうのはあるけど。（主権回復を目指す会）俺は絶対入ってないな。主権回復を目指すって日本人として当たり前なんだから。だってさ、「日本を大切に思う」とかね、「日本を大切に思わない国民」がいたら「切腹しろよ、馬鹿かお前」とか思うので。

ただ在日特権を許さない市民の会というのはものすごいインパクトありますよね、名前が。だから漠然としてないですよ。ものすごいそこだけ。たとえば「ビールをこよなく愛する市民の会」みたいに、びしっと目的がはっきりしているってのが。で、ちょっとイデオロギーとは違うところにあるじゃないですか。在日特権、要するに在日を許さないのではなく、特権、そういう特権があるのを許さないというところに思想とは違う…。

今は思想がないと…ただね、来る人、集まる人に思想を求めるのは難しいと私は思ってます。思想で人集まらない。会長もよくいますけどね、私も本当にその通りだと思って。思想っていうのはやっぱり千差万別なんですね。保守主義とかって言っちゃうと、まあいっぱい主義はないですよ。保守主義は保守主義なんだから。だけど、思想ということになると、やっぱり人の数だけあるんじゃないか、って思うんですよ。それを束ねるというのはちょっと無理なんじゃないかな。であれば、もうちょっと分かり易い部分でまとめる。それがうちの会でいうと、いわゆる在日特権というものなんだろう。じゃあそれはなんだ、っていわれたらうちの会の思想でいうと、特別永住、それを廃止するという話ですけど、これだって相当難しい話で、これ廃止しようと思ったら、もともとの根本的なところからすべて変えていかないと、まあ無理ですよ。だからとても無理で、その無理な目標に向かってもっと細かいところ、通名を廃止しろ、パチンコの利

権をどうにかしろとか、ちょっと遠回りですけどやっていくという。この手法というのはありなのかなあと思ったりします。

ただ、北朝鮮に対しては「朝鮮人じゃなくて日本人拉致すんじゃねえよ、早く返せよ」という意味での関心はありますが。民族、たとえば半島民族には何の興味もないです、悪いけど。純粋に歴史を勉強するなかで百済とか、あのへんは私個人的に好きだっていうくらいなこと。そういう趣味の中での好きだって話であって、たとえば朝鮮人はこうだからああだとか、そういうことには全然興味ないです。まあいいじゃないのっていうくらいなもので。ただまあ、言っている人たちのキチガイじみた主張ってのもなんとなくわかるんです。ミクシイとかみてる、ちょっとおかしい人いるじゃないですか。明らかに頭おかしいのかな、と思う人とか。震災の時も、韓国人がやってきたら口蹄疫だっけ、何だかうつされるから入国拒否しろとか騒いでいる、馬鹿じゃないかと思うけど。それを抗議するからといって、電話回線が込み合っているのに馬鹿みたいに抗議している。何で迷惑なことしているんだ、こいつら馬鹿じゃないかって思ったりはしますけども、ある種そういう考えに陥る人もいるんだろうな。日本人はいっぱいいるんで、あんまりそういうのは大して何とも思わないです。馬鹿だなあと思って。

《活動の実際》

やっぱり外に出て、ビラ配りは自分でやってたからあんまり抵抗なかったんですけど、マイクを持ってしゃべるとかっていうのは、めちゃめちゃ抵抗あります。まずしゃべれない。まったくしゃべれないし、しゃべる気もない。元々ずっと裏方をやってたんで、表に立つというのはちょっと（自分の）キャラクターじゃないなって。

私が初めて街宣したのは、まじめに街宣をしたのは、なにかちょっとしゃべれていわれて、何かよくわからない意味不明なものを1分くらいじゃなくて、ちゃんとしゃべったのは1年前から。本当にそんなレベル。それまでもう断固拒否してたんです。私はしゃべらないって。乗りかかった船じゃないですけど、やらなきゃしょうがないんだなって。実際やってみたらできるんだよね。何となく。

《得られたもの》

さっきもチラッとおっしゃってましたけど、メリットなんて何にもないですよ。冗談ぬきで。唯一あるとしたら、やっぱり普通にサラリーマンになり、社会人になってたら絶対会わないタイプの人たちと知り合

ったというのは、なかなか大きいなとは思。なかなか会う機会がない。一応、人の縁なんで、それは大きかったなあとと思いますけど。逆にこんなことしなかったら、もっと違う出会いもあったんだろうなと思ったりすると、どっちがいいのかはわからないですけどね。

金銭的にも全然メリットないですしね。減る一方なんで。だから鬱憤晴らし（が参加動機）というのも意味がわからないです。私としては、むしろストレスたまりますので。デモンなんてやりたくてやっているわけじゃないんで。本当に義憤です。誰もやる奴いないんだしたら、自分がやらなきゃいけないと思ってやるので。元々私飲むの好きなんで、1週間に5回も6回も飲みに行っていますから。それがむしろ活動やっているせいで、準備とかあるから週2回くらいしかいけなくなって、減ってるじゃない。そもそも友達と遊ぶ時間、かなり減っちゃってるんで。土日こんなことやっているから。そういうのもあるから、どうなんだろうね。寂しくもなければ鬱憤晴らしもしてない、ていうのが普通感覚です。

まあ、一応今もう付き合い長くなっていますんで、(在特会の人たちは) 友達といえば友達だし、「おい飲みに行くぞ」と誘うし、誘われることもありますけど、一応それはある種イデオロギーで若干つながっている部分があるんで、本当に友達という、ちょっと違うんですね。やっぱりね。そういうのを考えると、どうなのかなあと。

6. 外国人参政権について

もともとは、国家として考えたときに、他国の要するに日本に帰化していない他の国の人が日本の政治に関わるっていうことを、ものすごくそれがグローバル・スタンダードであるというような論調の朝日新聞もそうだし、記事がいっぱい出るんですね。新聞に。それに対して全然マスコミが騒がない。要するに何でおかしなことを主張しているのに、マスコミはいつもの論調でそれはおかしいって言わないのかな、というのが本当に怖かったですよ。

外国人参政権が出てきたのが、十何年前に認知はしていた。だけど悪い癖じゃないですけど、「ふん」って話。どこかの幼稚園児が「ばーか」といっているのと同じで、「へー」という感じでした。あの、歯牙にもかけない。馬鹿だな、で終わり。まさかそれがこんな成立間際までいくようなレベルにまで話が膨らむなんて、微塵も思っていない。絶対にありえないと思っているんで。今なんかありえるかもと、ちょっと思っていますけど。

人権擁護法案というのは危ないと思ったんですよ。

成立するかも。でも外国人参政権というのは、絶対にありえないと思ってたんで。だから馬鹿なこと考える人もいるもんだなあ、というレベルでした。本当にそんな感じで。それが両方強いじゃないですか。どちらも現実的な話として、普通にいつでも通りそうみたいな状況が本当に怖いすね。そうなってくるとますますつまらなくてもこの活動から足を洗えないですよ、本当に。

(関心を持つきっかけ) いつだったかな。在特会に入るちょっと前ですかね。そのときにはもう結構政治のチャンネル桜とか全部見てたし、政治系のブログとかもよくみるようになって、永住外国人地方参政権運動という名前が出て、「何だこれは？」と。それもやっぱりインターネットから——もともとはそうですね。で、おかしいじゃないかと思ってそれにまつわる本を片っ端から買って。

(外国人参政権を具体的な問題として認知するようになったのは) それはもう完璧に在特会に入ってから。前だったら、ただ愚痴を言っていて終わるだけなのが、会に入ったことであるじゃないですか。何となくこう細かいところは大きく違うんでしょうけど、似たような考えの人がいっぱいいるってことがわかったことで、アクションを起こすにしても数多いに越したことはないっていうのもあって、できるのかもしれないなあと思ったんですよ。保守運動というものが。だからまさかそのときはうちの会から逮捕者が出るってのは、微塵も思っていなかったんで。

どう言ったらいいかな・・・国家というものを意識したときに、たとえば今回の震災でもわかったように、永住許可をもらってですよ、生活保護を受けている人でも簡単に自国に帰っちゃう。果たしてそういう人に政治に関わる権利というものを与えることってのは正しいんですか、という思いがすごくあります。だから、ケツを持っていないような人に——例えばその結果何も変わらないんだとしても、それは申し訳ないけど結果論であって、やっぱりそれは全員が全員そこからいってだめじゃないかと感じているわけです。

日本で本当に影響が出ないと思ったら、私は絶対に出ると思うんです。特にやはり中国側の政策っていうのがあって、毎年毎年どんどん人を入れていってますよね。日本に流入、日本どころかアメリカもそうだし、インドもそうだし、とにかく自国から人を出して人数減らそうとしているのか何なのか知らないですけど。そういう政策がある中で、日本のように国家に忠誠を誓う必要もなければ何もしない状態で・・・かなり軽い感じに国籍を取ってしまうような国で、政治に関わる権利ってものを永住許可持っている人にはみんな与

えましようという流れになっちゃってますよね。もともとはあくまでも在日一世のもともと日本に併合においていた人の子孫なり何なりという限定で、ずっと話が進んでたはずが。

だから民主党政権になって急に、いや別に永住許可をもっている外国人みんないいんじゃないの、という流れにシフトしていつている。それはやはり危険で、それをやっていくと間違いなく永住許可をもっていない外国人から、「私にないのは差別だ」という話になると思うんですよ。で、なった時に「いやそれは法律上違うからダメです」と突っぱねないんですよ。日本の政府なり日本人というの。そっちに傾くんですよ。なあ、であれば外国人、たとえば3年いたら自動的に取れるようにしたらどうかとか、恐らくそういう風に本当になると思うんです。今外国人が、在日韓国人が外国人の証書¹持たなくてもいいように騒いでいるとか、なったのか忘れたけど、どんどんどんどん甘くなるんですね、規制が。世界の進んでいる方向とは逆に進んでるような気がやっぱりする。

外国人参政権で騒ぐと、多分私たちが騒ぐとというのあって、他の保守系団体が騒ぐっていうのがあって、市の条例とかで住民投票を外国人やりましようというのをどんどんやってますよね。あれ私としては間違いなく憲法違反だと思ってるんですよ。市の条例で云々かんぬんって、市の中の住民投票といっても、やはりそれは私、国政にも影響してくるって思ってる。それが日本の政治体系のベースになっているのが、要するに地方と中央が切り離されてない、アメリカみたいにナントカ州ナントカ州みたいに独立していませんよね。やっぱり中央集権というのは江戸時代、その前からずっとそうですから。それが日本の歴史として積み重なって、敗戦後のわずか60何年とか70年程度で日本というものの形が変わるといのはちょっとおかしいよ。だから、外国人参政権には断固として反対ですよ。

7. 結語に代えて

D氏は、教育勅語や終戦の詔勅を暗記させられるような家で育っており、自らを「尊皇主義」という。そうしたD氏にとって重要なのは天皇制や伝統であり、東アジアではない。その意味で、在特会に関わるきっかけは他の大多数のメンバーとはかなり異なっている。本人も関心がないといっており、「保守運動」を進めたかったという動機から在特会に入っている。そしてD氏自身も「思想で運動はまとめられない」と

割り切っており、「特権」に対する異議申し立てだけ共有できればいいという。その意味で、在特会のメンバーの参加動機には幅があり、「剥奪」に還元できるようなものではない。D氏の場合、「思想」としては旧来型の右翼に入っても何らおかしくないが、「いかつい人たちが何かこう命をかけてます」とみえた右翼の組織文化とは相容れない部分があった。ホワイトカラーとして働くD氏にとって、在特会は思想こそ完全に共有しているわけではないものの、「市民の会」という名前が体现する組織文化に親和性があったということだろう。

その意味で在特会という看板は、D氏のように「思想」と「組織文化」のギャップから活動してこなかった潜在的支持者も引きつけたと考えられる。全国各地に支部ができたのも、ネットをみて共鳴した個人が「支部の担い手になります」と自発的に手を挙げたのが大きく、D氏のようなケースは一定程度見られると思われる。

文献

- 北田暁大, 2005, 『「嗤う」日本のナショナリズム』日本放送出版協会.
- 近藤瑠漫・谷崎晃編, 2007, 『ネット右翼とサブカル民主主義——マイデモクラシー症候群』三一書房.
- 小熊英二・上野陽子, 2003, 『<癒し>のナショナリズム——草の根保守運動の実証研究』慶應義塾大学出版会.
- 高原基彰, 2006, 『不安型ナショナリズムの時代』洋泉社.
- 辻大介, 2009, 「調査データにみるネット右翼の実態」『Journalism』226: 62-69.
- , 2011, 「『ネット右翼』的なるものの虚実——調査データからの実証的検討」小谷敏他編『若者の現在』日本図書センター.
- 安田浩一, 2010, 「在特会の正体」『G2』6: 76-105.
- , 2011, 「ネット右翼に対する宣戦布告」『G2』7: 270-295.

(付記)本稿は科学研究費補助金による研究成果であり、稲葉奈々子、申琪榮、成元哲、高木竜輔、原田峻、松谷満の各氏との共同研究によっている。記して感謝したい。

¹ 外国人登録証を指している。